

わかると快感!

Z会ナビ

算数

理科

▶ 歴史

地理

お題

明治・大正時代に、鉄道はどのように発達したのか?

(東京大学 2006年 日本史)

「Z会ナビ」が

Webサイト

でも読めます!

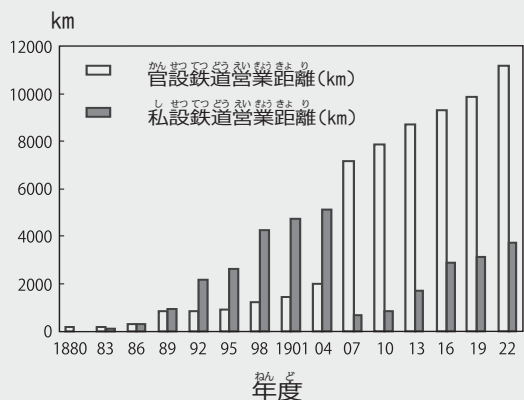


Z会おとナビ新聞

検索

これまでの内容も掲載しています!

次のグラフは日本での鉄道の発達を表したものです。このグラフを見て、鉄道が営業している距離はどのように変化したか、その特徴と理由を説明しなさい。



今回は鉄道の発達のお話です。日本での鉄道の建設は、明治時代になってから本格的に始まり、上のグラフの□は官設、つまり国の鉄道が営業している距離を、■は私設、つまり民間の企業が作った鉄道が営業している距離を、それぞれ示しています。

それでは、グラフを見てみましょう。

明治時代の私鉄ブーム

まず注目したいのが、1889年から1904年までの期間です。官設の鉄道に比べて私設の鉄道がぐんと営業距離を伸ばしています。明治時代の初めには、政府は「官設官営(国が建設し運営する)」を基本方針としましたが、西南戦争という国内で起きた戦いで多くのお金が必要となり、鉄道を建設する予算がなくなってしまいました。



イラスト：瑞木匠

鉄道と歴史背景

そこで、政府は民間の企業による鉄道建設を支援する方針に転換し、日本鉄道会社という会社を1881年に設立させます。この会社が利益を上げたことで、私設鉄道ブームが起こり、多くの鉄道会社が鉄道を次々と建設しました。また、1890年代は紡績業が発展し、各地で製鉄所が営業を始めるなど、鉄道に限らず産業全体が盛り上がりを見せた時期だったため、効率よく物を運べる鉄道の建設は大変喜ばれるものだったのです。

私鉄から「国鉄」の時代へ

1907年以降の期間を見ると、私設がぐんと減り、官設の鉄道が距離を伸ばしています。1906年に政府が鉄道国有法という法律を制定し、ほとんどの私設鉄道を国のものにしたためです。

この背景には、1904~1905年のロシアとの戦争がありました。民間の鉄道会社には、会社の資金を外国人に援助してもらっている会社が多くありました。援助してもらっている以上、戦争中であっても、会社の営業状態を伝える必要があります。そうした情報を戦争の相手国に伝えられてはまずい、と考えたのです。また、戦争のための物の運搬など、緊急に鉄道を使う場合、いろいろな会社が鉄道路線を分割して管理していると、運搬させるにもその前の調整に時間がかかってしまいます。こうした危機感から、政府は鉄道の国有化を進め、日本国有鉄道、いわゆる「国鉄」の時代になっていきました。

この国鉄が、やがて民営化されることとなり、1987年に誕生したのが、現在のJR各社なのです。【Z会・河原井彩】

今回の教訓
鉄道は、産業にとっても戦争や軍隊にとっても、重要な存在です。

河原井彩さん 2007年にZ会入社。大学受験用の日本史、政治・経済の教材編集を経て、現在は小学生向けデジタル通信教育「デジタルZ」を担当。新潟県生まれの埼玉県育ち。